

AAFAユース強化育成コンセプト

網走地区サッカー協会 技術委員会2014



1. ユース育成年代の定義

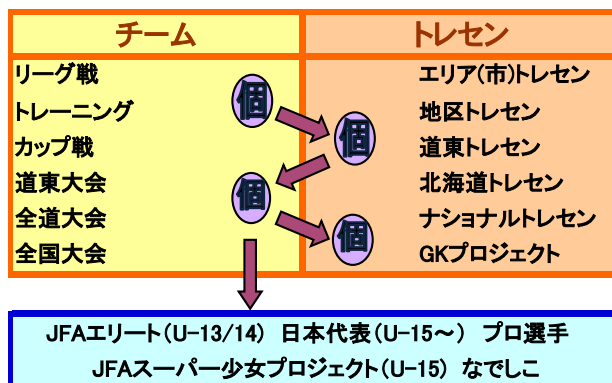
年代	U-10	U-11	U-12	U-13	U-14	U-15	U-16
	ゴールデンエイジ			ポストゴールデンエイジ			クライマックス
ゲーム環境	誰もがフットボーラー(8人制)			ポジションの適性を考える(11人制)			大人のサッカーへ
指導の主眼	個に焦点を当てた育成			チームコンセプトのもとに個を育成			

育成年代を10歳から16歳までと、明確に定義します。つまり小学4年生からは、育成の指導方針に沿って指導していきます。

それぞれの発達段階にあわせて、個に焦点を当てた育成から、徐々にチーム(組織)のコンセプトの下に個が生かされるように指導の主眼を変えていきます。そのために、ゲーム環境をU-8からU-13までは、8人制を主として行い、U-13から14にかけて本格的に11人制に移行していきます。

ただし、このときに注意しなければいけないのは、U-12までは”1対1”だけでいいのかということではありません。個の育成を主眼としながらも、他のプレーヤーなど自分を取り巻く環境と関わりながら、フットボーラーとしての技術・戦術・体力を磨いていくということです。

2. チームとトレセンの両輪による指導



日常のトレーニング環境はチームが主体です。チームにおいて、サッカーに関するすべての要素を発達段階を考慮して指導しています。また、当地区は4種年代でも早い段階からリーグ戦を導入し、8人制にも取り組んできました。チームを通して個を育成する環境が徐々に整いつつあります。

トレセンでは、優秀な選手や意欲の高い選手のトレーニング環境を、より高度なものにできるように取り組んできました。

また、これまで世界基準を目指して、地区→道東→北海道→JFAへとつながるステップとしての役割を担い、子どもたちに夢を実現する場を提供してきたつもりです。

チーム・トレセンそれぞれルートは違いますが、個の育成・強化を目指すことに変わりはありません。指導者は、どのような立場であっても「プレーヤーズ・ファースト」の視点に立って、子どもたちの夢の実現の手助けをしていくべきであろうと考えます。

3. 網走地区の可能性

子どもの成長は時間がかかります。「この子はこれができない」「この子はだめだ」と、決め付けてしまうのは、選手の可能性を奪うことにつながっていくかもしれません。

当地区出身の選手として、奈良竜樹・高瀬愛実といったプロ選手や全国の強豪大学・高校で活躍している選手がいます。これらの選手は、高い技術や身体能力を持っていたと思いますが、どれほどの指導者が彼らがここまで活躍すると予測していたでしょうか。広い網走地区を考えると、これほどの選手もしくはこれ以上の選手がこれからも育っていく可能性は十分あると思います。

選手の可能性が開花するのは育成年代を過ぎてからということもあります。指導者が彼らのトレーニング環境・ゲーム環境を整えてあげることで、選手が自立したときに、育成年代で身につけた技術・戦術・体力・精神を駆使して彼らは活躍していくことでしょう。

数年前までは、網走地区から優秀な選手を輩出しつつも、地区選抜全体のレベルは常に低位に位置していました。順位だけでなく、ゲーム内容・選手の技術レベルともに、北海道の中では低いといわざるを得ない状況でした。

しかしながら、近年のさまざまな取り組み(指導者養成・リーグ戦改革・選抜チームの遠征回数増・各種年代トレセン指導方針の共有など)により、地区選抜に選ばれる選手の質が徐々に上がってきました。右肩上がりの進歩とまでは行かないまでも、さまざまな人のさまざまな努力が形になりつつあるのは事実です。

4. 網走地区の課題～可能性を伸ばす～

課題というと欠点を改善するとらえがちですが、網走地区が持っている可能性をどこまでも伸ばすために、どんなことができるかという視点に立って考えてみたいと思います。

	アドバンテージ	ディスアドバンテージ
トレセン選手	”個”だけを見ると秀逸 選手の輩出	組織の中で”個”を生かせない 選手の流出
選手数	指導者一人あたりの選手数が少ない 広域だから、多くの選手の中から選抜	人数が少なくてチームとして成り立たない 近隣にチームがない
指導者	数多くの指導者研修会を実施 指導者研修会に参加し、質の向上	みんな忙しい 指導者の流出

U-10エリアトレセンが定着し、徐々にこの年代に関わる指導者が増え、指導の質も向上してきています。C級ライセンス取得者も増えてきたり、一人ひとりの意欲の向上も見られます。よりいっそう指導者どうしのネットワークの構築・コンセプトと情報共有を目指していきます。普段はそれぞれの生活圏でできることを考え、実行していきながら、組織的に取り組んでいくことが大切だと考えます。
ただ、左の図のように、すぐには解決できない問題も多く抱えています。学校や地域社会をも巻き込んだ改革に着手しなければならないでしょう。

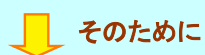
近年、網走地区トレセンから巣立っていった子どもたちが、社会人となって戻ってきています。選手として活動している場合が多いようですが、コーチとして活動しようという意欲のある方もいます。高いレベルを経験してきた貴重な人材を、現場で指導者として育てていくのも我々の仕事であると考えています。各地域協会・クラブ関係者の方々は、情報網を張り巡らせ、優秀な若い指導者に活躍の場を与えていただきたいと思います。

さまざまな成功例を見ると、情熱と行動力・人づくりと仲間づくりで、夢のようなことでも実現が可能だということがわかります。網走地区としても、サッカーに関わる仲間がユース育成のコンセプトを共有・共感して、あきらめずに努力していけば、目標の達成が可能だと思います。「AAFAドリームプロジェクト2014」をみんなで達成しましょう。

AAFAドリームプロジェクト2014

U-16年代以降で日本代表となる選手を複数輩出

U-11年代以降で毎年北海道トレセンクラスの選手の輩出



4～2種 全チームにC級以上の指導者の登録(常に目指す)

B級コーチ養成講習会に毎年受講生を派遣

毎年、全チームの指導者がリフレッシュ研修会に参加(地区トレセンスタッフは40P・エリアスタッフは10P以上)

U11エリアトレセンの開催(2016年までに)

各種年代および女子の指導者から、北海道トレセン・道東トレセンの中心となるコーチの複数輩出